

○8 番（鈴木美香君）

おはようございます。8 番、立憲民主党 鈴木美香です。

今日は 3 つ質問します。では早速、まず 1 つ目、女性支援法へ向けての方策は。

来年 4 月「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されます。女性の人権保障と男女平等社会の形成への寄与を目指します。困難な問題に直面し、支援が必要なのに支援を求めることが難しい女性に、地域のさまざまな機関や民間団体が力を合わせ最適な支援を届けることを目的とします。この女性支援法の新しさのひとつとして、国および地方公共団体の女性支援の責務、中でも市町村の責務の明記が挙げられます。

1 つ目、女性の困難な問題とは何を想定されますでしょうか。

○議長（濱野良一君）

健康福祉課長 石床勝則君。

○健康福祉課長（石床勝則君）

鈴木議員のご質問にお答えいたします。

女性が抱える問題は多様化、複合化、複雑化しており、性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性その他のさまざまな事情により、女性が日常生活や社会生活を円滑に営む上で抱える困難な問題全般であると承知しております。

主なものとして、生活困窮、性暴力・性犯罪被害、家庭関係破綻、コロナ渦で浮き彫りになった孤独・社会的孤立等があげられます。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○8 番（鈴木美香君）

女性の問題というのは、かなり先ほどもおっしゃってましたけども、すごく問題が多岐にわたっておりまして、先ほどの子どもの問題を聞いてても胸がつぶれたんですけども、やはり賃金の格差、生活困難というのが最大の課題ではないかと思えます。そして、性暴力ですね。これは、もうなかなか表に挙がらないし、こういう小さなコミュニティーでは、挙がるとその後の生活にたいへん支障が起こす。そういう問題は、もう喫緊の課題だと思います。そして、私は、やはり相談員の設置、それも、会計年度任用のような短期ではなく、専門的な相談員がまず大事ではないかと思えます。

あと、家賃ですとか、住宅の支援とかも必要なのではないかと私個人は考えております。

では、2 つ目。女性支援法について、4 月施行に向けて町ではどの程度準備が進んでいますか。

○議長（濱野良一君）

石床課長。

○健康福祉課長（石床勝則君）

女性支援法に基づき、国は、困難な問題を抱える女性支援のための施策に関する基本方針を令和 5 年 3 月 29 日に定めております。国の基本方針に即して、県は、基本計画を今年度中に作成する予定となっております。町といたしましては、県の基本計画に沿って県と連携して、具体的な取り組みを進めていくことになると考えております。

この支援法での町としての役割は、関係機関との緊密な連携や民間団体との協働による支援などが期待されているところですので、困難な問題を抱える女性への支援窓口の周知等に努めるほか、支援活動を行う民間団体や民生・児童委員との協力を持つなど、関係各機関による女性への支援が地域の中で有効に機能し、充実していくよう図ってまいります。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○8 番（鈴木美香君）

県がまだ基本ができてないということですので、もちろんそれに伴って進めていってほしいと思います。行政内部の女性支援に関する理解を深め、女性支援や相談に対する認識を変える必要があります。とくに、首長や管理職の本気度が問われる施策だと思えます。ぜひ、前向きに女性・男性というジェンダーの問題ではなく、女性が活躍し、女性が安定すると世の中は明るくなって風通しが良くなって活性化すると思えます。ぜひ、よろしく願います。

では、2 つ目。介護職の待遇改善についてお伺いします。

制度が始まり、22 年を経た介護制度、介護保険などはどんどん複雑になってしまい、その中で分かりづらくなっていると専門家は訴えています。小豆島のみならず、日本中で介護職の人材不足が深刻になっています。国は、外国人を期待しているように見えますが、人材確保の面でも世界の賃金競争に負け、日本に入って来る可能性はかなり低くなっています。

まず、町の訪問介護の登録ヘルパーの賃金についてお伺いします。

1 つ目、ここ 10 年の賃金はどうなっていますか。

○議長（濱野良一君）

石床課長。

○健康福祉課長（石床勝則君）

鈴木議員のご質問にお答えいたします。

登録ヘルパーの方につきましては、常日頃から訪問介護職員の手助けをしていただき、たいへんありがたく思っております。ここ 10 年の登録ヘルパーの賃金につきましては、平成 29 年に訪問入浴サービスに係る単価を増額しておりま

す。また、本年10月には、新人の同行訪問、移動、待機時間に係る単価を増額しております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○8番（鈴木美香君）

2回ほど上げてるとおっしゃるんですが、やはりかなり低く、平均でもだいたい4万から6万円通常の職業よりも低いといわれています。そして、とくにここ現在、物価が高騰して生活を直撃しているといわれています。町独自で介護職の賃金を上げてほしいと考えていますが、それはできないのでしょうか。

○議長（濱野良一君）

石床課長。

○健康福祉課長（石床勝則君）

登録ヘルパーの賃金につきましては、介護報酬や会計年度職員のホームヘルパー給与の状況を参考に定めており、現在のところ賃上げは予定しておりませんが、引き続き、町内介護事業所の動向を注視するなどしてまいりたいと思っております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○8番（鈴木美香君）

専門家は、介護保険はずっと黒字で2022年度は3000億の黒字までなっているということです。毎年、市町村に介護給付費準備基金として保存されて、総額今までに9000億以上貯まっているといわれています。財源は、あるはずなんですけど、どうして、それで賃金アップできないんですか。

○議長（濱野良一君）

石床課長。

○健康福祉課長（石床勝則君）

再質問にお答えいたします。

先ほども申し上げましたように、この事業につきましては、介護報酬を基準に運営しております。その中で、介護報酬につきましては、ここ数年ほとんど上がってないという状況でございますので、そこにつきまして、先ほど言いましたように、他のですね、町内介護事業所の関係もありますので、その辺を見ながら検討していきたいと考えております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○8番（鈴木美香君）

他市町の一般質問でもよくこの問題は取り上げられています。で、まあ同じ

ような執行部のご返答なんですけど、とすると、介護人材はもう来なくなるんですね。で、私たち、もう10年後になるかどうか、介護人材がいなくなると介護難民が発生するのはもうすでにあるんです。そのあたりは、どうお考えでしょうか。いなくなるのは目前という、まず賃金、そして待遇、そのあたりはどうお考えでしょうか。

○議長（濱野良一君）

石床課長。

○健康福祉課長（石床勝則君）

介護職員につきましては、先ほど言われてますように医療難民というかたちで、かなり人材は少ない状況でございます。ただ、私どもの介護ヘルパーの関係につきましては、当初は、町の中で実施しておりましたが、今現在は民間のほうで実施していただきよるところがあります。その関係がありまして、私どもが基本的に今する事業ではないと考えておりますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○8番（鈴木美香君）

介護は、先ほども申し上げました専門家が訴えている、どんどん複雑になって、ちょっと私などが理解の範囲に及べないんですが、国は、施設から在宅に、病院から在宅にと舵を切っているんですね。とすると、ホームヘルパーの存在価値がすごく重要になってくるんですけど、もうすでに、そのホームヘルパーが全然足りなくなってるということなんです。なので、そういう当たり前のことをおっしゃるのではなくて、3つ目の質問ですが、例えば移動時間を出されてるとおっしゃってるんですが、現行では、現場のヘルパーさんが言うには、移動時間の賃金手当てはオンされていないと。例えば、せめて、まずここから15分刻み、10分刻みの30分ぐらい、自宅から行くのであれば、その30分ぶんの労働賃金というか、移動も労働と考えて支給はできないんでしょうか。

○議長（濱野良一君）

石床課長。

○健康福祉課長（石床勝則君）

職員の移動時間の算定につきましては、現在すでに事務所から利用者宅までの移動時間を賃金に算定し、支給しております。先ほど、議員さんが言われていたのは、たぶん直接家から利用者宅まで行かれるという件だと思うんですが、そちらにつきましては、通常、まず事務所に来ていただいて、その間の自宅から事務所までは通勤という扱いになっておると思います。通勤手当は出てますが、賃金に対しては出ておりません。その考え方で、直接利用者宅へ行く場合

は、通勤というかたちで考えておりますので、賃金は発生していないという状況になっております。

時間設定の考え方につきましては、ご質問の趣旨や諸事情を踏まえまして、検討してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○8番（鈴木美香君）

そうおっしゃってるんですけど、もうちょっと利便性をよく、そのあたりの確認を、使い勝手がいいように、その介護ヘルパーさんが良いように改変して行ってほしいんです。決まりはもちろんあるんでしょうけど、すごくストレスが多くて大変なことも多いヘルパーさんに、もうちょっと寄り添った事業なり、展開をしてほしいなと思います。ぜひ、そのあたりの柔軟性を持ってほしいなと思います。

では4つ目、今ではほとんどの人がいつかは自らがお世話になる介護や施設、そうなる前に、自分の目でどういったところか、どんなことをしているか、雰囲気などを体験するのもいいのではないかと思います。例えば、65歳を過ぎると、1度は施設にボランティアに行ってみるといった仕組みづくりを提案したいのですが、どうお考えでしょうか。

○議長（濱野良一君）

石床課長。

○健康福祉課長（石床勝則君）

鈴木議員のご質問にお答えいたします。

議員のおっしゃるとおり、介護施設がどんなところなのか理解している方は、関係者以外では少ないと思っております。介護施設への見学につきましては、現在でも各施設に連絡していただければ対応できるということでございました。

また、施設の催し事にボランティアとして参加している方は大勢おられるそうです。ボランティア活動につきましては、強制することは難しいと思いますので、興味のある方につきましては、施設見学からしていただきたいと思っております。

また、施設からボランティア等の依頼がございましたら、町の広報等でですね、周知していきたいと考えております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○8番（鈴木美香君）

たいへん前向きなご答弁だと思いますが、ぜひ、皆さん現場を知らないのを、

自分は必ずお世話になります。関係ないってことは絶対ないので、そのあたりはシステムのにはしていただきたいかなと思います。何度も申し上げますけど、介護の人たちがいなくなるからではなくて、自分たちのこととして、そしてすごくありがたい一定数の方おられます。そうはいつでも、介護のヘルパーに来てくれてる人おられますので、ぜひ寄り添った待遇改善をお願いしたいと思います。

では、3つ目の質問に移ります。

小豆島まつりについて、1つ目、小豆島まつりが「からかい上手の高木さん」人気もあり、活気づいており、とても嬉しい喜ばしいことと思います。一方で、町民自らが出演を希望してもあまり良い返事がもらえないといったようなことを聞きました。町民参加のお祭りだと思うのですが、もっと町民が参加できるようにはできないのでしょうか。お伺いします。

○議長（濱野良一君）

商工観光課長 蓮池幹生君。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

鈴木議員のご質問にお答えいたします。

小豆島まつりにつきましては、コロナ禍により2年間の中断を余儀なくされ、昨年再開を果たしたところであります。ご承知のように、小豆島まつりの企画内容につきましては、小豆島まつり振興会への関係各位の協議を経て決定されます。昨年の再開に際しては、全国的人気を博しているアニメからかい上手の高木さんとのコラボイベントを取り入れることにより、町民をはじめ、島外からの多くの方々にも楽しんでもらえるような実施内容にしようと振興会の中で話し合わせ、多くの関係者の協力があり、成功を収めることができたものと認識しております。

小豆島まつりは、町をあげてのエンターテインメントの場であり、趣向を凝らした内容で祭りそのものや、雰囲気を見たり体感することにより、お越しいただいた皆さまに満足してもらえるよう企画していく必要があります。そうした意味では、芸能や音楽の発表会の場とは異なっております。こうしたことから、小豆島まつりの場においては、必ずしも、一個人や一団体のご希望通りにならないこともあるかと存じますが、まつり全体が多くの方々のご支援やご協力により成り立っておりますので、今後とも小豆島まつり振興会でのご意見や協議をいただきながら、企画、運営してまいりたいと存じます。どうぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○8番（鈴木美香君）

もちろん四海の太鼓まつりとか、富丘通りの太鼓まつりとか、あと土着の祭りでは違うと思いますが、そもそも「まつり」の認識が全然違うなど、今お伺いして思っていました。エンターテイメントというよりも、やはり私は、住民が参加するのが祭りじゃないかと思います。エンターテイメントはまた別の括りではないかと思ってるんですけど。先ほどのご答弁ですと、そうしますと、歴史がある、ないにかかわらず出たいとか、せっかくステージがありますので、出る素地は全然あると思うんですね。出たいと言っても、出れないということなんでしょうか。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

鈴木議員の再質問にお答えいたします。

先ほども申し上げましたが、小豆島まつりは主催者である小豆島まつり振興会によって実施内容が協議され、決定されております。ですので、個人個人の意見がすべて通るというわけではなくてですね、このステージ時間も本当に短くて、限られた時間のステージ時間の中で、小豆島まつりにふさわしいものかを判断しながら、振興会のもとで決定がなされていきます。そして、次、今おっしゃいましたけれども、この小豆島まつりはですね、多くの住民に支えられて、また多くの住民も参加しております。これまさに住民参加型イベントの典型だと思っているんです。なかなか一人一人のご意見はあるかとは思いますが、小豆島まつりは、もう、あくまで個々の団体の発表の場といった意味合いではなくてですね、小豆島まつりの出し物としてやっぱりふさわしく、そして多くの皆さまに楽しんでもらえるような、そういった趣向を凝らしたステージを作ってきた。そのおかげもあって、これまで町民はじめ、多くの皆さまに楽しまれてきたものだとして認識しております。以上です。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○8番（鈴木美香君）

言葉間違ってるのかもわかりませんが、だいぶ冷たいなと私は印象受けました。そもそも、時間が短いというのはどういう観点からでしょうか。5時ぐらいからやられ、4時半かな、からやってはるんで、しかもステージがある。個人の訴えというよりも、町の人1人でもいいんじゃないですか、それは。それで振興会の意見がすごくあるように、私それ聞いたんですけど、主人公は町の人じゃないですか。振興会じゃないですよ。そのあたりの見解をお伺いしたいです。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

鈴木議員のご質問にお答えします。

いろいろな町にもイベントがありますけれども、例えば、タートルマラソンにしても、その実行委員会なり、振興会なりをつくっていくわけですよね。その中で、やはり揉んでいかなければ、なかなか、それぞれ個人個人、1つ1つの意見をみるわけにはいかないと思っています。先ほどの時間なんですけれども、実は、小豆島まつりでも時間はものすごく短くてですね、もともと。で、夜もありますから、いう中で、例えば、今年度ですね、このステージイベントというのは45分間しかないわけですよね。そのあとに、アニメとのコラボがありますので、そういった45分間の短い時間の中で、これまでずっとですね、例えば3世代の皆さんが楽しめるような中学生のブラスバンドであったり、あるいは、高校生の樽太鼓ですね、そういったものがあり、あるいは、もう1人のふるさと応援大使の勝詩さんのコンサートであったり、そういったものをしてしまうんですね、もうすでに時間がもういっぱいってこともありますので、そういった中で、なかなかですね、皆さんが出てきてほしいんだけど、なかなか出れないという事情もありますので、もし、ちょっとどの団体か分からないんですけども、芸能まつりであったり、文化展、ちょっと分かりませんが、そういった他の出せるところもあると思いますので、そういったところも含めてですね、ぜひご検討いただければと思っています。

もう一度繰り返しますけれども、本当に限られた短い時間のステージとなりますので、そのあたりをちょっとご理解いただきたいと思っています。よろしくお願いします。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○8番（鈴木美香君）

やっぱり、なんか、すごく冷たいというか、祭りってそんなもんじゃないでしようっていう気がしますよね。みんなが集まって、みんなで楽しむ。出たい人は出たらいい。で、時間が少ない。ごめんなさい。高木さんよりも町民重視だと私は思います。だから、やっぱりそういうところが、エンターテイメントというと、私の祭りの概念に、ちょっと差があるんだなっていうのが感じました。町は、町民が主人公です。今、おっしゃいましたけれども、その時間がないのであれば、例えば、何日まで募集をかけて、もう「出たい人」って言って、「はい」って登録して、もう、くじなりじゃんけんなりってのもありだと思います。で、私はちょっと勝手すぎるのですが、皆さんがすごく努力されてるのは本当に知ってます。去年は35度でしたか、私、30分居るのでへろへろでした。皆

さん、それでもすごく場内を案内して、本当にありがとうございます。それを踏みにじっているように聞こえると、すごく心外ですが、ただ、やっぱり町の人が主人公いうんだけは、本当に忘れないでほしいなと思います。

2つ目です。高木さんについても、テレビまで取材に来るほどの全国の高木さんのファンの間ではとても有名な方がおられます。その方は、テレビにも出られました。その方たちと一緒に共に作り上げることが、町の活性化にもつながるのではないかと思います。どうでしょうか。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

鈴木議員のご質問にお答えいたします。

ご承知のように、アニメ事業の実施にあたっては、著作権を管理している政策委員会の許諾を得る必要があります。アニメ「からかい上手の高木さん」が持つ作品の世界や、あるいはそのイメージをゆっくりと損なわないように、許諾の審査が行えるわけですが、まずこの審査を通り、かつ質の高いものだけが事業化されます。手間暇がかかりますが、そのことによって、権利元との信頼関係が生まれ、土庄町ならではの特色あるイベントを多くの皆さんに楽しんでもいただいているところです。このような中、数多のさまざまなファン層がいる中で、特定の人物だけの意見を通すわけにはいかず、また、すべてのファンの意見を聞くとなると、收拾がつかなくなる可能性もあります。「ファンとの適切な距離感が大切」だと言われているのはこのためです。

多くの方々が、小豆島まつりでのアニメとのコラボイベントを楽しみにしているという声が多くある中、本事業が継続できますように、それぞれの立場において参加し、また楽しんでいただければと思っております。

引き続き、本作品のことを最もよく知る権利元やアニメ事業に精通したアニメツーリズム協会、また、小豆島まつり振興会などと連携し、大局を見据えながら、しっかりとしたルールや枠組みの中で質が高く、かつ多くの方々に楽しんでいただけるものを作り上げてまいりたいというふうに考えております。どうぞ、ご理解よろしく申し上げます。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○8番（鈴木美香君）

確かにそうですね。一人一人のことを言うと收拾つかない。それは全く同感します。ただ、彼ら、彼女たちがいることによって盛り上がっているっていうのも一方で信じたと思います。何百万もかけてシールべたべた張って、毎週ぐらい関西の方から来られた方とか、何か本当にありがたいなと思っていま

す。なので、それでしたら、そういう方を集めて、その方々たちを目立たせてというんじゃないくて、その方たちも喜んでたぶん参加、何て言うんですかね、応援してくださると思うんですよ。だから、巻き込むというか、「一緒に作りましょう」っていう、その、うちらはうちら、あんたらはあんたら、みたいな垣根をあるんじゃないくて、彼女たちはすごく寂しい思いしてるんです。「せっかく、お手伝いしたいのに」とか、「知り合いいっぱい来てくれるのに」とか、なんか、その思いを酌んでほしいなというのが私の今日の質問の骨子なんです。だから、確かにこの高木さんの件でも課長はじめすごく努力して、やっぱ大きな小学館っていうのが相手なので、大変苦しい思いしてるのは、すいません、知らないですけど、分かる気持ちでいます。でも、ここでもちょっと町民を、もうちょっとこう寄り添ってほしいというか、集まるんだったら集まって、ちょっとこういう状況なんですって言うてくれるとかするとありがたいかなあと思うんですが、どうでしょうか。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

鈴木議員のご質問にお答えします。

ファンとの関わりというところなんですけれども、ファン活動の多くは、この権利なしで動いてるわけなんですよね。なので、権利に抵触しない範囲で、個人の範疇で楽しんでいただいているというふうに認識しているわけです。ファンだけで集まって、ファンだけで楽しむから肩肘張らずにですね、楽しめる。その、例えばさっきのいわゆる痛車ですよ。そういったものも個人の範疇で楽しんでるわけなんですよね。なので、それはそれで楽しんでもらったら結構なんです。一方でですね、やはりその権利に触れるような、例えば SNS で発信したりですね、あるいは勝手にイベントをやってしまう、そういった事案も実は散見されています。その方がそういったことをやってるとは分かりませんが、いうところがあります。そうなるということです、こうしたこれまで一歩一歩積み上げてきた権利元との信頼関係、それがもう崩れかねませんので、そうなる、やはりちょっとこの事業が継続できない方向になってしまうっていう可能性もあります。それは、もうとても悲しいことでもありますので、ですので、先ほど申し上げましたけれども、それぞれの立場において、そのルールの中で、権利の中で楽しんでもらいたいというふうな思いであります。

住民もたくさんの方が参加してきておまして、例えばですね、今回の夏まつりと合わせたスタンプラリーなんかは、むしろその町民参加型の典型でありまして、事業所を巻き込んで、そして街中を周遊してもらおう。その中で、コラボ商品を買ってもらったり、あるいは、お素麺買ってもらったり、お醤油買

ってもらったり、いろんなお土産もですね、一緒に買ってもらった。そこでの経済効果ってものすごいと思うんです。そういったかたちでファンの方々というのは楽しみ、そして参加していただきますので、そういったところですね、それぞれの立場において、このアニメを通じた事業というのを楽しんでもらいたいというふうに今思っております。以上です。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○8番（鈴木美香君）

よく分かります。よく分かりますけど、私とベクトルが違うなっていうのはたぶん、ずっと平行線だなと思っています。高木さんすごく大事です。でも私は、実は外付けではなく、小豆島のポテンシャル、中にあるもんからそういうものを上げていくほうが本来の筋じゃないかなと思います。町民の意識とか、やりたいこととか、「一緒に町としようよ」という気持ちを取り上げるほうが大事なのではないかなと思うことを意見として終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。